

令和6年度 全国学力・学習状況調査 調査結果の概要

はじめに

平素は本校教育活動にご理解、ご協力を賜り有り難うございます。

さて、本年度4月18日に3年生を対象とした「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月26日に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図って参ります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にして頂きますようお願い致します。

令和6年11月
(2024年)

I 教科に関する調査結果の分析

国語

(1) 調査の概要

本校正答率は全国値とほぼ同じ結果でした。

(2) 学習指導要領の各領域等における成果と課題

① 思考力・判断力・表現力等に関する問題

【話すこと・聞くこと】

「資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができるかどうか」についての問題の正答率は全国値を上回りました。しかし、「必要に応じて質問しながら話の内容をとらえる」問題は全国値を下回り、「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる」問題については、全国値とほぼ同じ正答率でしたが、無回答率が高かったです。

【書くこと】

「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」問題の正答率は全国値を大きく上回りました。しかし「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する」問題では、正答率は全国値をわずかに下回り、無回答率も高かったです。

【読むこと】

「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する」問題以外は、全国値を上回りました。また、「目的に応じて必要な情報に着目して要約する」記述式の問題では、正答率が全国値を上回っただけでなく、無回答率が全国値を下回りました。

② 知識及び・技能に関する問題

「文脈に応じて漢字を正しく書く」問題など、全国値を下回る問題が多くありました。

(3) 今後の改善点について

無回答率が全国値を上回る問題が多かったことから、選択肢や決まった答えがない問いに対して、自分の考えをわかりやすくまとめることに苦手意識を感じている生徒が多いと考えられます。どの学年の授業でも、教科書の作品を解説するだけでなく、作品を通して考えたことを文章にしたり、話し合ったりする活動を充実させていきます。まとまった文章を作ることが難しい場合は、考えを一度絵にすることや、ほかの人に言葉で説明をした後で文章にするなど、書くことへの抵抗が少なくなるよう工夫していきます。また、プレゼンやスピーチのために PC を使用して調べ学習をする機会も多いため、自分の考えをわかりやすく伝えるための情報を収集・選択する力は身につけていると考えられます。漢字や語句など基礎的な知識については定期テスト以外で小テストを行うなどして、定着を図っていきます。

数 学

(1) 調査の概要

本校の正答率は全国値とほぼ同じ結果でした。

(2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

【数と式】

「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題」・「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる問題」は全国値を上回りました。一方、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題」・「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

【図形】

「回転移動について理解しているかどうかをみる問題」・「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題」は全国値を上回りました。一方、「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

【関数】

「一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる問題」・「二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

【データの活用】

「与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる問題」・「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題」は全国値を上回りました。一方、「簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる問題」・「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

(3) 今後の改善点について

評価の観点で知識・技能の問題は理解できています。しかし、【関数】と【データの活用】の確率の単元については知識・技能の問題も正答率が全国値を下回っているため、与えられた式やグラフの特徴を関連付けて理解できるような活動や確率を求めることができるような活動を取り入れていきます。また、そのほかの領域についても、評価の観点で思考・判断・表現の問題は全国値を下回る結果が多くみられるのでどの領域の授業でも、様々な事象を数学的な表現を用いて説明する機会を増やしていきます。

2 生活習慣や学習環境などに関する調査の傾向

～生徒質問紙からの分析～

【生活習慣】

「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、「あまり食べていない」、「全く食べていない」の回答が全国値を上回りました。

「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」という質問には、「全くしない」、「1時間以下」という回答が全国値を上回る一方、「3時間以上」「4時間以上」という回答も全国値を上回りました。

「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」という質問でも、「2 時間以上」「3時間以上」「4時間以上」という回答が全国値を上回っています。

「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、「守っている」という回答は全国値を上回っており、より良い生活習慣の確立に向けて、ゲームやスマホの使用に関するルール作りなどは効果があると考えられます。今後も使用改善に向けた声かけを家庭でもよろしくお願いします。

【自己肯定感・自尊感情】

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の回答は全国値をやや上回りました。いじめをなくしていく高い意識には吹田市全体の「いじめ防止授業」を生徒の実態に合わせて実施していることの成果が見えています。

また、「自分には、よいところがあると思いますか」という問いは、全国値とほぼ同じでした。生徒自身の「もちあじ」を生かした多様な活躍の場を設定することで、これからも生徒の自己肯定感を伸ばしていきたいと思えます。

「友達関係に満足していますか」という質問は全国値を下回り、他者との人間関係作りには課題があることも見えます。「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定的な回答は全国値をやや上回っていることから、他者に寄り添った関わり合いの中で、自分や仲間が何をきっかけに、どのような気持ちになっていくのかを交流させる人間関係作りのスキルを向上させる場面を設定し、実践させ、自分に身についた力が実感できる活動を取り入れていきます。

【家庭学習】

「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の回答において30分以上勉強をしていると答えた割合は全国値をやや下回りました。これは本校の大きな課題であると捉えています。

学校内での学習活動を大切にすることでなく、教科の宿題や自主学習課題などを通して、家庭学習の大切さを伝えていくことで今後も引き続き、粘り強く指導をしていこうと考えています。

【家庭・地域社会】

地域行事に参加していると回答する生徒は全国値を上回り、自分たちの地域への愛着を感じる結果となりました。

一方で、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思えますか」という質問に対しては、肯定的な回答が全国値を下回る結果となっています。総合学習などを通して、自分が住む地域への思いを強く持つとともに、今の社会の課題に気がつき、それを解決していくために社会に対して主体的に関わっていくための生きる力を大切に育てていきたいです。

【ICT 機器の活用】

「ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思えますか」の質問に対しては肯定的な回答が多く、全国値を上回りました。毎日の心身の健康観察をはじめ、学校でも ICT 機器を活用する活動はスタンダードになりつつあります。しかし、実態としては授業でも、家庭学習でも自分で ICT 機器を活用するという選択をする生徒は多くありません。ICT 機器を使うことが目的ではなく、ICT 機器を活用することでよりよく学べるという実感を明示的に指導する必要があると考えています。

3 おわりに

本調査結果の分析より、学習における基礎・基本的事項の定着が全体的な課題としてとらえることができます。一方で、大半の生徒は実施された教科の学習は将来大切だと回答し、学習の意義は理解しています。さらに、「授業の内容はよくわかりますか」という質問にも大半の生徒が肯定的な回答をしています。これらのことを踏まえると、学習への意欲はあり、日々の授業にも前向きだが、基礎・基本を自分のものとするための時間を確保できていない傾向がうかがえます。学校全体としては今後、より分かりやすい授業の工夫を全体で協議していくとともに、適切な課題、宿題等を各教科で吟味し、継続的に学習の支援を行っていくことを検討しています。学習面での課題が解消していけば、生徒自身の自己肯定感をさらに上げていくことにもつながると考えられます。学習面での課題解決には家庭学習の時間も大切になります。これまでに引き続き、ご家庭と連携をしながら生徒の生きる力を育んでいきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。